

中小企業景況調査について

1 調査目的

この調査は、半期毎に清須市商工会が行う中小企業景況調査から、同地区内における経済動向等に関する情報の分析を行い、効果的な経営支援の実施ならびに事業活動の参考とすることを目的とする。

2 調査要領

(1) 調査対象時期

令和3年10月から令和4年3月の下半期を対象とし、調査時点は令和4年4月28日。

(2) 調査対象企業






清須市商工会地区内72企業。

内訳は、製造業12企業、建設業14企業、小売業15企業、飲食業17企業、サービス業14企業。

(3) 各調査項目の数字及び記号の説明

本報告書の中のDIとは、景気動向指数と呼ばれるもので、各項目調査についての増加(上昇、好転)企業割合から減少(低下、悪化)企業割合を差し引いた数値。

この数値と記号の関係については下記の通り。

雨	曇りのち雨	曇り	晴れのち曇り	晴れ
				
△100.0～△60.1	△60.0～△20.1	△20.0～20.0	20.1～60.0	60.1～100.0

中小企業景況調査報告書(清須市概略版)

(令和3年10月～令和4年3月期実績、令和4年4月～令和4年9月期見通し)

1 清須市商工会地区内における産業全体景況

産業全体はすべての指標が悪化

今期の産業全体における景況は、売上額DIが-23.6、採算DIが-22.2、資金繰りDIが-13.9となり、対前期比でそれぞれ-1.4ポイント、-8.3ポイント、-11.1ポイントと、すべての指標が悪化した。

全産業が、コロナの影響から少しずつ改善に向かってきたが、新たな問題として、ロシア軍によるウクライナへの軍事侵攻（以下、「ウクライナ情勢」という。）が起きたことで景況感は悪化に転じた。但し、これまでコロナの影響で打撃を受けてきた飲食業は大幅に改善した。これは、ウィズコロナ・ポストコロナに向けた経済活動に動きが出てきたものと考えられる。

次期は、売上高DIは改善、採算DI、資金繰りDIは悪化する見通しである。

産業全体の主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-23.6% (対前年比 23.7改善)	次期予想	-19.4% (対前年比 2.8改善)
・採算DI	-22.2% (対前年比 14.3改善)	次期予想	-23.6% (対前年比 -9.7悪化)
・資金繰りDI	-13.9% (対前年比 15.8改善)	次期予想	-18.1% (対前年比 -15.3悪化)

産業全体景況天気図

総評



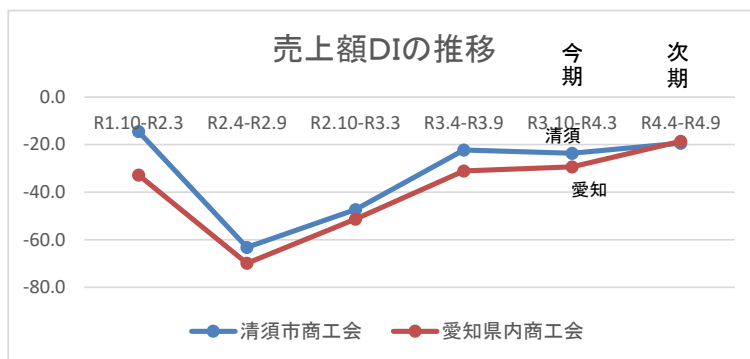
時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		-14.5%		-20.3%		-17.4%
2年4月～2年9月		-63.2%		-52.6%		-31.6%
2年10月～3年3月		-47.3%		-36.5%		-29.7%
3年4月～3年9月 (前期)		-22.2%		-13.9%		-2.8%
3年10月～4年3月 (今期)		-23.6%		-22.2%		-13.9%
4年4月～4年9月 (見通し)		-19.4%		-23.6%		-18.1%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

2 愛知県内商工会(愛知県)と清須市商工会(清須市)との比較

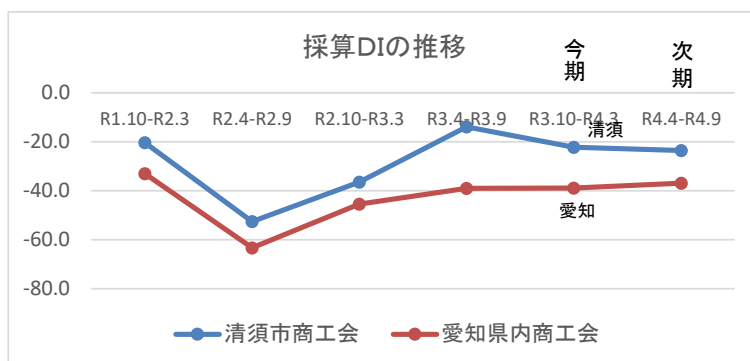
①売上額DI

清須市は、前期から微減、愛知県は前期から微増となり、双方の差は縮まった。
次期は清須市、愛知県共に、改善の方向にあり、DI値は概ね同水準となる見通し。



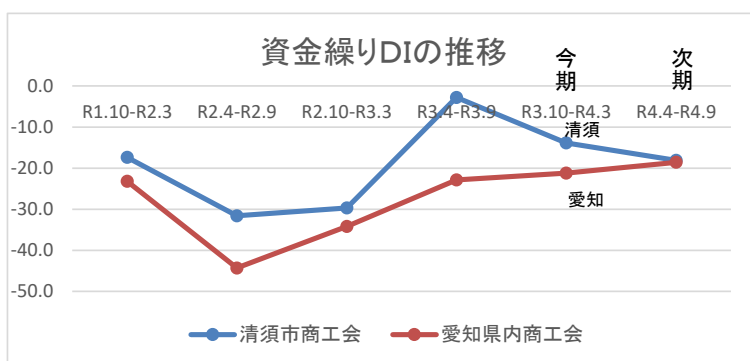
②採算DI

清須市は前期から悪化、愛知県はほぼ横ばいとなり、双方の差は若干縮まった。
次期は清須市が微減、愛知県が微増で、DI値は概ね横ばいの見通し。



③資金繰りDI

清須市は前期から大きく減少、愛知県は若干改善の方向にあり、双方の差は縮まった。
次期は清須市が更に悪化、愛知県は改善の方向にあり、DI値は概ね同水準となる見通し。



【全産業平均】

売上額DIの推移					今期	次期
時期	R1.10-R2.3	R2.4-R2.9	R2.10-R3.3	R3.4-R3.9	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9
清須市商工会	-14.5	-63.2	-47.3	-22.2	-23.6	-19.4
愛知県内商工会	-32.8	-69.9	-51.3	-31.0	-29.3	-18.6
採算DIの推移						
時期	R1.10-R2.3	R2.4-R2.9	R2.10-R3.3	R3.4-R3.9	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9
清須市商工会	-20.3	-52.6	-36.5	-13.9	-22.2	-23.6
愛知県内商工会	-33.0	-63.3	-45.4	-39.0	-38.9	-36.9
資金繰りDIの推移						
時期	R1.10-R2.3	R2.4-R2.9	R2.10-R3.3	R3.4-R3.9	R3.10-R4.3	R4.4-R4.9
清須市商工会	-17.4	-31.6	-29.7	-2.8	-13.9	-18.1
愛知県内商工会	-23.2	-44.3	-34.2	-22.9	-21.2	-18.6

※愛知県内商工会の数値は、愛知県商工会連合会が作成する中小企業景況調査報告書(愛知県概略版)から引用

3 業種別景況

(1) 製造業

製造業は売上額DI、採算DIは悪化、資金繰りDIは横ばい

製造業では、売上額DIが-8.3、採算DIが-8.3となり、対前期比でそれぞれ-16.6ポイント、-8.3ポイント悪化した。資金繰りDIが8.3となり、対前期比で横ばいとなった。

前2期は、全ての指標において改善していたものの、今期は一転悪化した。中国のロックダウン、ウクライナ情勢の影響により、原材料・材料の高騰・不足の影響が出ている。

次期は、全ての指標が悪化する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-8.3% (対前年比 20.3 改善)	次期予想	-16.7% (対前年比-25.0 悪化)
・採算DI	-8.3% (対前年比 27.4 改善)	次期予想	-33.3% (対前年比-33.3 悪化)
・資金繰りDI	8.3% (対前年比 36.9 好転)	次期予想	-16.7% (対前年比 -25.0 悪化)

製造業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		8.3% ↗		0.0% ↗		-33.3% ↘
2年4月～2年9月		-50.0% ↘		-42.9% ↘		-42.9% ↘
2年10月～3年3月		-28.6% ↗		-35.7% ↗		-28.6% ↗
3年4月～3年9月 (前期)		8.3% ↗		0.0% ↗		8.3% ↗
3年10月～4年3月 (今期)		-8.3% ↘		-8.3% ↘		8.3% ⇨
4年4月～4年9月 (見通し)		-16.7% ↘		-33.3% ↘		-16.7% ↘

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(2)建設業

建設業はすべての指標が改善

建設業では、売上額DIが0.0となり、対前期比で横ばいとなった。採算DIが-21.4、資金繰りDIが-21.4となり、対前期比で共に-21.4ポイントと大幅に悪化した。

前期は、全ての指標が好転していたが、製造業と同様、ウクライナ情勢の影響により、原材料の高騰・不足の影響を受け、悪化に転じた。

次期は、売上高DIが悪化する見通し、採算DIは横ばい、資金繰りDIは改善する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	0.0% (対前年比 38.5 改善)	次期予想	-21.4% (対前年比-21.4 悪化)
・採算DI	-21.4% (対前年比 1.7 改善)	次期予想	-21.4% (対前年比-21.4 悪化)
・資金繰りDI	-21.4% (対前年比 1.7 改善)	次期予想	-14.3% (対前年比-14.3 悪化)

建設業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		0.0%		6.7%		-20.0%
2年4月～2年9月		-53.8%		-38.5%		-15.4%
2年10月～3年3月		-38.5%		-23.1%		-23.1%
3年4月～3年9月 (前期)		0.0%		0.0%		0.0%
3年10月～4年3月 (今期)		0.0%		-21.4%		-21.4%
4年4月～4年9月 (見通し)		-21.4%		-21.4%		-14.3%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(3)小売業

小売業は売上額DIが改善、採算DI、資金繰りDIは横ばい

小売業では、売上額DIが-46.7となり、対前期比で+13.3ポイント改善した。採算DIが-26.7、資金繰りDIが-26.7となり、対前期比で共に横ばいとなった。

前期までは、売上額DIが非常に低い値であったが、今期は多少の改善をした。

次期は、売上額DI、採算DIが悪化する見通し、資金繰りDIは横ばいの見通しであり、全産業の中で最も厳しい状況がうかがえる。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-46.7% (対前年比 15.8 改善)	次期予想	-53.3% (対前年比 6.7 改善)
・採算DI	-26.7% (対前年比 -1.7 悪化)	次期予想	-40.0% (対前年比 -13.3 悪化)
・資金繰りDI	-26.7% (対前年比 -1.7 悪化)	次期予想	-26.7% (対前年比0.0 横ばい)

小売業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		-28.6% ↗		-42.9% ↘		-14.3% ⇔
2年4月～2年9月		-58.8% ↘		-52.9% ↘		-29.4% ↘
2年10月～3年3月		-62.5% ↘		-25.0% ↗		-25.0% ↗
3年4月～3年9月 (前期)		-60.0% ↗		-26.7% ↘		-26.7% ↘
3年10月～4年3月 (今期)		-46.7% ↗		-26.7% ⇔		-26.7% ⇔
4年4月～4年9月 (見通し)		-53.3% ↘		-40.0% ↘		-26.7% ⇔

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(4) 飲食業

飲食業は2期連続ですべての指標が改善

飲食業では、売上額DIが-11.8、採算DIが-11.8、資金繰りDIが0.0となり、対前期比でそれぞれ+41.1ポイント、+41.1ポイント、+17.6ポイントと全ての指標が大幅に改善した。

前期は、前々期の非常に低い値から改善に向かっていたが、今期は更に大きく改善した。DI値自体も他の産業と遜色ない水準まで改善している。

次期は、売上額DI、採算DIは更に改善の見通し、資金繰りDIは悪化の見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-11.8% (対前年比 58.8 改善)	次期予想	0.0% (対前年比 52.9 改善)
・採算DI	-11.8% (対前年比 64.7 改善)	次期予想	-5.9% (対前年比 47.0 改善)
・資金繰りDI	0.0% (対前年比 47.1 改善)	次期予想	-11.8% (対前年比 5.8 改善)

飲食業景況天気図

総評



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		-46.7%		-60.0%		-20.0%
2年4月～2年9月		-88.9%		-77.8%		-44.4%
2年10月～3年3月		-70.6%		-76.5%		-47.1%
3年4月～3年9月 (前期)		-52.9%		-52.9%		-17.6%
3年10月～4年3月 (今期)		-11.8%		-11.8%		0.0%
4年4月～4年9月 (見通し)		0.0%		-5.9%		-11.8%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

(5) サービス業

サービス業はすべての指標が悪化

サービス業では、売上額DIが-50.0、採算DIが-42.9、資金繰りDIは-28.6となり、対前期比でそれぞれ-57.1ポイント、-64.3ポイント、-57.2ポイントと大幅に悪化した。

前期は、全産業の中で最も良い値を示していたが、今期は、全ての指標が急激に悪化した。要因は、ウクライナ情勢の影響により、原油価格の高騰、車両・部品等の工業製品の不足、材料等の高騰・不足などによるものと考えられる。

次期は一転、すべての指標が改善する見通しである。

主要3DIの対前年同期比推移

・売上額DI	-50.0% (対前年比 -21.4 悪化)	次期予想	-7.1% (対前年比 -14.2 悪化)
・採算DI	-42.9% (対前年比 -28.6 悪化)	次期予想	-21.4% (対前年比 -42.8 悪化)
・資金繰りDI	-28.6% (対前年比 -7.2 悪化)	次期予想	-21.4% (対前年比 -50.0 悪化)

サービス業景況天気図



時期	売上額DI		採算DI		資金繰りDI	
1年10月～2年3月		0.0%		0.0%		0.0%
2年4月～2年9月		-57.1%		-42.9%		-21.4%
2年10月～3年3月		-28.6%		-14.3%		-21.4%
3年4月～3年9月 (前期)		7.1%		21.4%		28.6%
3年10月～4年3月 (今期)		-50.0%		-42.9%		-28.6%
4年4月～4年9月 (見通し)		-7.1%		-21.4%		-21.4%

※DI値内の矢印は前期からの動きを示したものです。

4 経営上の問題点

今期、直面している経営上の問題点を業種別に示したものである。

今回の特徴は、原材料・材料等仕入単価の上昇が上位にあり、割合も高い。中国のロックダウン、ウクライナ情勢の影響が出ている。また、コロナの長期化による需要の停滞も続いている。

業種	順位	問題点	割合
製造業	1位	原材料価格の上昇	35.7%
	2位	原材料の不足	10.7%
	2位	需要の停滞	10.7%
建設業	1位	材料価格の上昇	26.5%
	2位	従業員の確保難	11.8%
	3位	材料の入手難、材料費・人件費以外の経費の増加	8.8%
小売業	1位	仕入単価の上昇	35.5%
	2位	需要の停滞	16.1%
	3位	消費者ニーズの変化への対応	12.9%
飲食業	1位	材料等仕入単価の上昇	36.8%
	2位	需要の停滞	15.8%
	2位	利用者ニーズの変化への対応	15.8%
サービス業	1位	利用者ニーズの変化への対応	21.4%
	2位	材料等仕入単価の上昇	14.3%
	2位	需要の停滞	14.3%

5 取り組むべき経営課題

問題の解決に向けた経営課題を全産業平均及び業種別に示したものである。全産業で販路開拓が課題であることに変わりがない。前項にて、材料等仕入単価の上昇(コスト増加)が問題点として上がっていた。その対策として、コスト削減が全業種で上位に入っているものと思われる。

業種	順位	経営課題	割合
製造業	1位	設備投資	31.8%
	2位	販路開拓	27.3%
	3位	コスト削減	18.2%
建設業	1位	コスト削減	30.8%
	2位	人材募集	15.4%
	2位	現場改善	15.4%
小売業	1位	販路開拓	26.3%
	2位	コスト削減	21.1%
	3位	設備投資、新製品開発	15.8%
飲食業	1位	販路開拓	28.6%
	2位	新製品開発	19.0%
	3位	コスト削減	14.3%
サービス業	1位	販路開拓	35.0%
	2位	コスト削減	30.0%
	3位	現場改善	20.0%
全産業平均	1位	販路開拓	26.3%
	2位	コスト削減	22.1%
	3位	設備投資	14.7%